

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会 議事録

日 時	平成 31 年 2 月 19 日（火） 10：30～12：00		場 所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	(1) 平成 30 年度復興まちづくり計画の事業評価について (2) 復興まちづくり計画の変更について (3) 平成 31 年度の説明会等について (4) 復興まちづくり市民会議における検討状況について (5) にぎわい創出広場の整備について (6) 当面の復興関連工事の予定について (7) その他 ・リノベーションスクール@いといがわ			
出席者	糸魚川市	米田市長、木村副市長、見辺産業部長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、大嶋商工観光課長、横澤健康増進課長、丸山消防長、大西総務課長補佐、他担当係長		
	被災者関係者	28 世帯 37 人（被災者関係者以外の一般参加者 9 人）		
	報 道	3 社（建設速報社、新潟日報、上越タイムス）		
会 議 要 旨				
開 会 あいさつ (米田市長)	<p>被災者・関係者説明会の開催にあたり、一言あいさつをさせていただきます。</p> <p>本日は寒い中、お越しいただき感謝申し上げます。また、インフルエンザが流行するなか、このように久しぶりに皆さまとお会いすることができてうれしく思います。</p> <p>さて、平成 30 年度も残すところあと 1 か月あまりとなりました。この 1 年間は、住宅や事業所の再建が目に見えて進み、復興ということが身をもって感じる事ができた 1 年であったと思います。</p> <p>1 年を振り返る事業評価のなかで皆さまからアンケートにご協力いただきました。多くの感謝の声をいただいた一方で、以前のような街並みにはならないのではないか、にぎわいは戻らないのではないかという不安の声も多くいただきました。</p> <p>公共事業というのは、糸魚川市の課題を解決するために行うものであり、公正・厳正であるべきものなので、計画を立て、国や県の支援をいただくための調整をし、議会にお諮りして発注というように進めていきます。通常の事業では最低 3 年、大きい事業になると計画から事業化まで 5 年程度かかってしまうものもあります。ところが、今回の大火からの復興では、厳しい財政事情のなか、まったなしでやらなければならないというなかで、万全なものでなかったところもあり、不安にお感じになる部分もあったのだらうと思っています。</p> <p>不安の部分のひとつである、これからのにぎわいについて、昨日市民会議から提言と報告をいただきました。にぎわいの定義を「市内から市外から目的を持って街に人が集う」「糸魚川に魅力を感じた人たちが、たくさん訪れている」「駅に降り立った人たちが街中を回遊している」「住民同士の結びつきが強く、たとえ一人でいても寂しくない」「まちの環境整備が行われ、利用されている」の 5 つに集約していただきました。</p> <p>私どもも、不安を抱え、悩みながらも、当市の中心市街地であるこの場所を将来にわたり受け継いでいかなければならない、待つばかりではなく何か行動を起こし、将来を見据えていかなければならないのではないか、そのような思いで取</p>			

組を進めているわけであります。

4月に入り、駅北復興住宅への入居が始まりますと被災地の内外をあわせ、ほとんどの方の生活再建が果たされる見込みとなっております。

また、5月には元号が変わり、新しい時代が幕を開けます。

私たちの糸魚川市もこの大火という試練をひとつの契機として捉え、ピンチをチャンスに変えていくような発想で、この地域にお住いの皆さま、さらには市民が一丸となって、新しいまちづくりを進めていけるような1年にしていきたいと考えております。

皆さま方のさらなるご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

議題 (1)

(1) 平成30年度復興まちづくり計画の事業評価について

(2)

(2) 復興まちづくり計画の変更について

(3)

(3) 平成31年度の説明会等について

一括説明：齊藤復興推進課長

【質疑】

(男性1)

にぎわいについてご質問させていただきます。これから本番だと思っています。色々な情報やニーズが出てきましたが、最終的には民間の力をお借りするしか方法はないと考えています。色々な分野で指導される方、リーダーをぜひとも養成していただきたい。それと、今、駅北に目が向いていますが、駅南口に広く長い歩道が続いており、あの辺でもマルシェ等行えばかなりの出店数を望めると思いますのでご検討いただきたいです。

(齊藤復興推進課長)

にぎわいづくりの主体は民間の力だと考えています。力が発揮できる場合の支援は、市として会議所も含めてどんなことができるか考えながら、今後リーダーは必要と思っています。今いらっしゃらない訳ではないですが、もっと沢山のリーダー、活躍される方がいるだろうと思いますし、そういった方々が活躍できるような環境づくりや仕掛けを我々もがんばっていきたくと思っています。また、駅の南側についても、駅北復興と言いながら市全体のにぎわいについて、すでに復興推進課の域をオーバーする中でそういった話が出てでくるのかと思います。この辺は、庁内全体で関係部署と調整しながら取り組んでいきたいと考えています。

(男性1)

あと1点、こども消防隊について素晴らしい組織を作ってくださいました。なんですが、公的な事業に参加される訳です。今、訓練様式がないという感じですが、こどもも訓練様式を覚えることで自負心も生まれてきますし、公共の立場で動作を見ることによって市民の皆さんも安心できる場面もありますので、最低限の訓練様式をこどもたちに教えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

<p>議題 (4) (5)</p>	<p>(丸山消防長)</p> <p>2年事業や消防フェアなどにこども消防隊から出てもらい、訓練・学習したことを発表してもらっていますが、おっしゃる通りまだ規律がなっていないところ です。3年生から6年生まで4歳の違いがあり、全部同じ行動をとるのは難しい 面もありますが、学習面では、参加して身につけて良かったと言っていたいて います。外に向けて規律を持った行動は大事だと思いますので、今後の訓練の中 で取り組んでいきたいと思います。</p> <p>(4) 復興まちづくり市民会議における検討状況について (5) にぎわい創出広場の整備について 一括説明：齊藤復興推進課長</p> <p>(男性2)</p> <p>にぎわいの拠点施設についてお伺いします。1月25日の市民会議に傍聴して、 その時に出された意見で2点共感できました。1点目は、少子高齢化が進む中、 子育て支援に膨大な費用をかけて人の流れが作り出せるのか心配だという意見。 2点目は、子育て支援の拠点施設にするとといった方針が出ていることについて唐 突感があるという意見。私もそう思っていましたし、最終の市民会議までに精査 して検討して返答するとのお話だったと思います。今の説明では具体的にお話 いただけていないので、その辺をお答えいただきたい。</p> <p>(齊藤復興推進課長)</p> <p>第6回の市民会議のお話だと思います。全ての内容を精査・検討して、7回目 の会議でお答えすることにはなっていなかったと思いますが、費用についても、 施設の機能、内容、規模等がまだ決まっていません。それらについては、今後、 庁内で考えながら、また、皆さんからご意見を伺いながらお示しをして計画を進 めていかなければいけないと考えています。新年度からになると思いますが、具 体的な事業化に向けての課題だと思っています。子育て支援につきましては、に ぎわいづくりの若者・子育て世代という話の中で出てきているものです。唐突感 がぬぐえなかったところは、我々としても素直に受け止めて反省しなければいけ ない部分かと思いますが、市としても、子ども一貫教育を進めている中で子育て 環境を整えています。少子高齢化の進行を止めなければいけない中、出生数を上 げるためには子育て環境の改善も重要だということからの提案と考えていま す。</p> <p>(米田市長)</p> <p>補足させていただきます。市民会議の意見にもありますように、今ご指摘いた だいた意見を受けながら検討しなければいけないですし、意見を聞く中で拠点を どう持っていかなければいけないかということだと思います。それと、なぜ子育て でなのか？唐突であるという点について、冒頭言いましたようにまちの中心市街 地にはにぎわいが必要だと考え、被災地に対し行政として何ができるか、復興 復興の中で対応していきたいという形で全課からあげさせました。その中で、特 に子育て施設が手狭になってきているという環境があり、それならここでつくり のではないかという形のものであります。今やれることは行政だけでできるものではあり</p>
-----------------------	---

ません。複合的に持っていくには、行政ができるもの、民間ができるもの、中心市街地の皆さんや商工会議所など皆で持ち寄った中で対応できればいいと思います。積み重ねのない中で、大火という限られた時間の中で出ささせていただいたので、唐突と捉える方もおられるかもしれませんが、市としてもにぎわいの一助になるような形であげさせていただきました。

(男性2)

ありがとうございました。個人的には、若いお母さんや子どもたちが交流しあったり小中高生たちが読書しに来たり、色々な機能を持たせた子育て支援を中心とする施設は大賛成ですのでぜひ進めていただきたい。その場所は町内内になります。子育て支援を中心とする拠点施設という方針が出されてからは、地元の特に女性は、集まると、どんな内容になるのかどんな機能ができるのかというような話をしています。したがって、できるだけ早く具体的に進めていただきたいし、広く市民から意見を吸い上げていただきたい。

(齊藤復興推進課長)

まさしく地元でそういったことが心配されているところだと思います。これから市としてもどんなものにしたいのか、やりとりしながら具体的な内容をお示しできるようにしていきたいし、市民会議からもご意見いただきましたが、もう少し広くといった意味で“子育て”ということになると市内全域的に色々意見を伺いたいと考えています。どんな組織にしようか、どんな人に入ってもらえるかなどまだ具体になっていませんが、拠点を検討する、市民の意見をいただける会議を作っていきたいですし、その中で意見交換しながら事業化の計画をあげていきたいと考えています。

(男性2)

20代30代のお母さんやお父さんがどんなことを望んでいるかを大事にさせていただきながら、広く市民の考えを取り上げていただきたい。

(木村副市長)

市民会議では一定の方向性のご意見をいただきました。ご指摘のとおり、具体的には今年中に、利用するママさんやお父さん、教育にたずさわの方々、大町区をはじめとした被災地域の皆さん、商店街の皆さんなど、具体的にどこまで集まれるかは検討していますが、集まって議論する場を設置して、皆さんからいろんな技法を出していただき、我々からもご提案させていただき、皆さんのご不明な点を解決しながら皆さんと一緒に議論する場をつくりたいと思っています。なるべく早く皆さんのご意見をまとめてこの事業に結び付けられればと思います。ただ委員が100人会議とかまでいくとなかなかまとまらないところもあるので、その辺は我々で検討してご提案させていただきたいと思っています。

(米田市長)

補足いたします。お配りした資料の一番下に「にぎわい拠点については市民会議の意見や行政課題等をふまえ、基本構想をつくる」といった形になっています。副市長が言ったように構想をつくりながら基本計画、実施計画と入っていきたいと考えています。

(男性3)

今日の寄り合いは昼と夜にセットされているようですが、夜は若い方が参加されるのではないかと期待しています。私からのお願いですが、年寄の話だけでなく、これからの糸魚川市を背負っていただく方、30代から60代くらいが中心になるかと思いますが、子育て問題やこれからの糸魚川市をどういうふうにしていけばにぎわうのかといった話をさせていただきたいし、そういう話題を導き出していくような会議の持ち方をさせていただきたいです。もう一つ、資料4にもありますが、駐車場が足りてないという声もあります。これからつくられるにぎわい広場に集まってもらうことになる、自動車で来られる方も多いと思います。例えば、第四銀行の広くした駐車場の一部をお借りするとか色々アイデアがあるかと思えます。自動車で来る方が安心して駐車できるスペースの確保についてもご尽力をお願いしたいです。

(齊藤復興推進課長)

次の糸魚川を担う世代からのご意見を吸い上げてほしいというご意見、まさしくその通りで、その方々が意見を出しやすいような会議の持ち方、そういったことにも工夫して進めてまいります。駐車場について、市でも一部、駐車場の拡大を見込んで工事を進めようと思っています。ご提案のように銀行や民間駐車場で自分のご商売や事業に支障のない範囲でお貸しいただくとか、そういったことでイベント時の駐車場台数確保も進めていきたいです。ひとつは「歩いていただく」ことなので、これだけで完結というものでもない、その辺は上手に配置できればと思いますし今後考えて進めていきたいと思っています。

(男性4)

にぎわいの拠点施設について、今お聞きした通り細かいことはこれからという理解でよろしいでしょうか。私の立場での視点になりますが、まちのにぎわいということでの定義と言いますか、にぎわいということは「活気」が含まれていないのにぎわいではないと思います。今までの話ですと、活気が抜けているにぎわいと言いますか、簡単に言いますと、どこのまちへ行ってもまちの中心部が良い街だなとまず見ると思えます。ここのまちは、火事の前から駅前本町通りは人の通りが何もない、現在は人が一人も通っていない。その中に、にぎわいの施設、にぎわい拠点施設とにぎわい創出広場、これが一番期待で、これがどういうふうに進められるか、これがこのまちの中心部が生きるか死ぬかの堺で大事なところだと思います。核というものが昔のまちの商店にありました。大型商店が昔は3軒ほど並んでいてそれによって人が集まってくる、昔の話です。現在は何を指して核と言うのか？今話に出ている人がただ集まって事務的なことをしてそのまま車に乗ってまた帰る、それは活気のあるまちづくりのもとになることなのか考えていただきたいです。糸魚川のまちは良いまちだと思えるために広く考えていただきたいです。とにかく良いまちにする最後のチャンスで、これを逃がしてしまえば人気（ひとけ）が無いまちになってしまうのではないかと懸念しております。

(米田市長)

まさしくおっしゃる通りだと思います。我々は、にぎわいは活性化しているところがにぎわいのあるまちとの捉え方ですが、考えてみると、じゃあ活性化とは

何か？にぎわいとは何か？と漠然として分からない部分があったものですから、市民会議の委員の皆さんは分析されて意見をまとめていただきました。今ご指摘があったところは、市民会議で若い人たちや色んな人から喧々囂々と意見を言っていたいただきました。昨日も商工会議所の会頭と私にその辺をご報告いただきました。まさしく核はそこで魅力を感じ人が集まってくるのが大事で、魅力は何かと言うと、中心市街地、商店街においては、魅力ある商店であり魅力ある商店街でなくてはならない。これに対してそこに住んでいる住民や行政が勉強しながら、住んでいる人もご理解いただく中でもう一度挑戦してみようということになっていくのだと思います。ただ昔のままかと言うと時代が変わってきて、車社会になったり少子高齢化において住んでいる人も変わってきています。そこでその魅力をもう一度詰めていきたいということで、市民会議であがった意見を3つのジャンルに分けていただき、このような方向でのご報告をいただいたと思っています。そういったところを基本構想の中でどのように絞り込んでいくのか、これも行政だけではできませんので、市民の皆さんや商工会など集まっていただいて組織をつくって詰めていきたいと思っています。

(男性4)

2つの施設の方向性は非常にこのまちに大きいものだと思います。活気のある住みやすいまちになればいいと思います。活気がでてきますと商店数も増えてくると思います。よろしく願いいたします。

(男性5)

消雪パイプについて、できあがって実際に水を散水してみると、前と同じような錆び付いた水で、銀行西線と浜町通線の交わったところを堺にして、くっきりと茶褐色の色が道路に残ってしまいました。埋設したのは早い時期でしたが、試行することもあまりなかったような気がします。雪がパラパラ降ってきたら水が出るようにはなりましたが、雪が消えた段階で見ると色がついて明らかに違いが分かるような道路になってしまいました。これは水源の問題もあると思います。もう少し早いうちに水を出してみれば良かったと思います。道路が汚れてしまったのでは遅いと思います。実際のところ、消雪パイプの計画があるのかどうか教えていただきたいです。もう1点は、消雪パイプの水源地はどこにあるのか分かりません。おそらく横町に1点、大町1点だと推測しますが、今後のために教えていただきたいです。

(五十嵐建設課長)

後半の水源について、海望公園に1か所、観音堂小路線の旧楽々の横辺りに1か所、横町の国交省出張所辺りからずっと東の方へもってくるところがあります。赤水に関して、前の2つは東に寄れば寄るほど鉄分の多い海水に近いような赤水が出てきます。これは、付近に加賀の井さんをはじめ民間の方で既存の井戸を使っている水源より糸魚川市の井戸はだいぶ深い、海望公園のところは100m近いところから水をとっていて、民間の井戸を使っている方に影響がないように配慮したものでその井戸を現在も使っています。ご指摘いただいた石畳風が赤くなってしまうことは当初から懸念していましたし、逆に避けられないことだと考えていまして、私も過去に石畳風がレンガ風になってしまうことも考えられます

ねと申していましたが、実際のところせつかくコストをかけて石畳風にしたものが区別つかなくなってしまうのは困りますので、今の水源の中で、井戸を浅いところから水を取るのは危険ですので、ほかのところから水を回せるものかどうか今ご指摘いただいてやらなければいけない仕事だと感じています。検証ということに関して、道路に切れ目を入れたのですが、雪が消えてくれるのかだいぶ心配していましたが、雪の消え方には問題なかった状況です。前半の部分は検討させてください。

(女性1)

私と姉が交代で母と暮らしますが、その中で感じたのが何て糸魚川はのんびりとおっとりした良いまちなんだろうということです。会議の中に「糸魚川の魅力」が入っていますが、糸魚川の魅力って何だろうと考えさせられる場面が沢山あります。大火災を起こした張本人の情報は入ってきますが、誰も表立って大騒ぎする方はいません。そういうおっとりしたところは糸魚川の良さ・魅力ではないかと思います。また、家がにぎわい創出広場の近くということもあって、親子連れが雪の中手をつなぎながらおっとり通っていくとか、天気が良いと幼稚園の子どもたちが1時間ほど遊んで帰っていくなど、そういったのんびりしたおっとりした人間性そのままの地域です。そこで、話題になってきているにぎわいとか中心地のことなどは、果たしてこれからもそうであるべきなのかなと私は考えました。そういうことも含めて、若い人の意見を入れていただきながら新しいまちづくりをしてもらえるとありがたいです。

資料4について、私は色んなところで理解できなかったです。例えば、ランドリーって何だろう？プレイヤーって誰のこと？といったところです。会議をして意見を集めることは良いことですが、鋭角的にものを考えていくと、自分たちだけが分かる言葉が先行してしまっただけで内容が漠然としてしまうことがあります。その辺は配慮していただきながら資料を出してもらえるとありがたいです。

(齊藤復興推進課長)

糸魚川の今の魅力を続けながら将来に向けてどんなまちになっていけばよいか、その辺りが重要かと思います。資料4については申し訳ありません。昨日(市民会議で)発表していただいたのは、パソコンのスライドを使って分かりやすい資料を作っていただいております。今日皆さんにお持ちできず職員でまとめたものになり読み取りづらい部分があるかと思っています。ご意見いただきましたのもっと簡単になるように皆さんにお知らせしていきたいと思っています。

(米田市長)

糸魚川の駅前をどうしたら良いかというお話をいただきました。北陸新幹線糸魚川駅ができましたが、全国でこれから新幹線が延伸して増えたとしても150はいかないと思います。その中の一つ、糸魚川のまちに新幹線があることは、我々は自負しながら進めていかなければならないですし、糸魚川の魅力を出していき、訪れた人たちに糸魚川は良いまちだねと言ってもらえるようにしていかなければならないと思っています。申し訳ございませんが、駅北大火があった時にしっかりとお示しをしていきたいと思っています。駅南側に住んでいる方も段々少なくなっていくのは明確です。せつかく先人たちが努力して新幹線駅が糸魚川にでき

た訳ですので、我々も自覚しながら将来につなげるまちにしていきたいし、まちの方には新幹線が糸魚川に止まるんだということを示していきたいと思っています。

(男性2)

にぎわいについて発言します。市民会議のにぎわいの定義はその通りだと思います。特に『①市内から市外から、目的を持って街に人が集う』状態をつくり出すためにどういう仕掛けが必要か、説明会でそれに関係する質問を何回かしてきましたがまだすっきりしません。大賛成と言った子育て支援を中心とする拠点施設が機能していくと一定のにぎわいがつくり出せると思います。一方で、平成30年4月1日現在の大町2丁目の高齢化率は51%を超えていて、緑町区、新七区も同じくらいです。高齢化率がこれだけ高い地域ですから、高齢者がどうやって目的を持ってまちに出て行くか仕掛けをつくらないと、高齢者は出て行かないです。もうじき共同住宅ができますが、ほとんど高齢者だと思います。にぎわい創出広場の機能も再三お聞きしています。にぎわい創出広場が、日常的に高齢者がまちに出ていく機能を持てるのかよく分かりません。にぎわい創出広場のほかに、その仕掛けや戦略をどう構想するかせひお聞きしたい。

(米田市長)

仕掛けをつくってみればというお話であります。仕掛けも大事ですが、住んでいる方々や高齢者が、何が欲しいのか何をやりたいのかが大事になってきます。例えば、大町や本町と根知や早川では違うと思いますが、住んでいる方々が自分たちはどうあるべきかをどこかで情報発信していただきたい。高齢者の方は経験豊かで知識もありますので、それを活かす場を我々もつくりますのでその場を活用していただきたいです。また、そういった場は大火で増えたと思っています。例えば、中山間地域では農閑期に皆で集まって花壇を作ったり、地区の集会ではゲートボールをしたあと皆でお茶を飲んだりして集まる機会をつくっておられます。集まれば色々な話が出て、話が出ればその方向に動いていきます。広場や具体的に決まっていない拠点の話も出てきます。そこで完結しなくても良くて、そこから波及しても良いと思います。集まることで健康になりますし、その中で健康管理を進めていけばいいと思います。まだこれといった形にはなっていないので、いくらでも意見の詰め込みもできますし、区長さんが取りまとめていただいているかと思っていますので、そういうところで声を発信していただければと思います。仲間同士や好きな者同士など色々な枠組みが考えられます。そういったことで柔軟な対応をしていきたいと思っています。

(男性2)

市長の言われることは分かりますが、市民会議でのにぎわいの定義『目的を持って街に人が集う』の“目的”なんです。共同住宅に18世帯が入り生活する、この人たちが何の目的を持って街に集いますか？前々から私が言っているように食料品を調達することが目的を持って街に出ることなんです。その機能、そういう仕掛けをつくる必要があると申し上げています。

(米田市長)

集う目的が食料であるならそれはそれで良いですが、もっと大きく捉えなけれ

ばと思います。来るからにはそれなりの目的があります。不特定多数の人たちがどのような目的で来られるのか考えながら進めていかなければいけない、食料だけで完結できるものではないと思っています。食料もひとつであろうと思います。それはどのようにやっていくのか、有ったものが無くなっていることを考えたときに、また持ってきてもまた無くなる訳です。それをどう捉えていくのか、基本的なところを解決していかなければ誰も提供することができないのではないかと思います。そういった意見がある、そういうことを考えなければなりません。あげたことに対してこうだこうだではなくて、皆でどうすればいいのか考えないと到達時間が遠くなっていきます。今言われましたことが、経済的に採算性が取れれば何も言わなくてもできてくると思います。できてないのは、こういうことがあったことを捉えて皆で研究して検討しながら作り上げていきたいと思っています。

(男性6)

昨年3月に店を再開しまして、今は被災者でないつもりです。お話を伺っていて、被災から元の場所に戻るまでは皆一生懸命で、にぎわい広場のことはもちろん分かっていましたが、そこまで考える時間や余裕もなかったです。今年の春になると本町通りにお店を構える方、海沿いや中央区に近いところでも再建される方がいらっしゃいます。実情としては、にぎわい広場についてお話をする機会が被災者にはなかったです。地域住民の一人として特に近隣の方のご意見も伺ってみてはいかがかと思っています。

(齊藤復興推進課長)

そういった実情があったと思われまして、できるだけ担当もご近所の方にも少しずつお話をしてみましたが、それが十分かと言われれば十分でなかったかもしれません。今後、活用に向けて皆さんにも有効な施設になるように運営していかなければならないですし、皆さんとお話を伺う場をつくっていきたくと思っています。

(男性3)

本町通りの特に高齢の方は、本町通りのお店が閉店して食料品を買いに行くのが大変になったとよくお聞きます。私の考えですが、自動車に食料品を積んで食料品を欲しい方のお宅へ届けるとか、移動式の店が出ていただければありがたいです。出ていただけないようなら、市でそういう人をお探しいただくなどして、移動販売も頭の中に入れていただけないでしょうか。

(大嶋商工観光課長)

市内にはいくつかの移動販売業者があります。町内を運行したり谷へも回っている業者がいます。例えば復興住宅の18世帯とかその周辺含めてそういうニーズがあれば業者の方で対応いただけるものだと思いますし、また、私たちからも情報提供させていただきたいと思っています。

(男性3)

ご検討をお願いいたします。

議題(6)

(6) 当面の復興関連工事の予定について
説明：五十嵐建設課長

閉会	【質疑なし】 (7) その他 【質疑なし】
----	---------------------------------